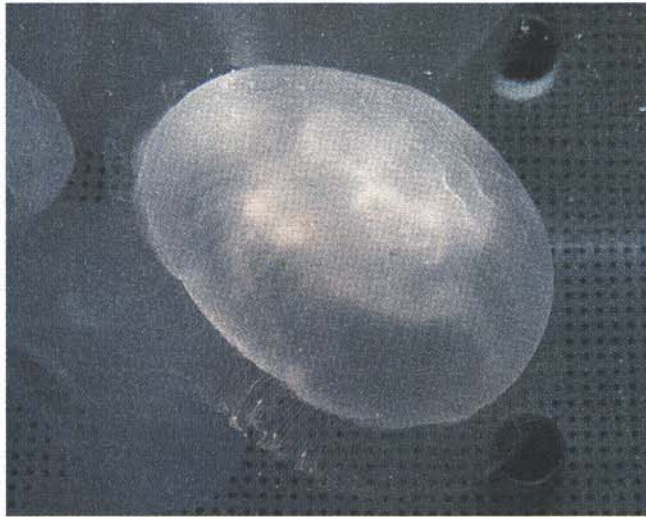


ミズクラゲ

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



水槽内をふわふわ泳ぐミズクラゲ (水槽番号202)

久保田 信

青虫からさなぎになつてチョウに変身する季節があるように、クラゲも種類ごとに姿を大きく変

える季節がある。大型クラゲの代表の一つであるミズクラゲ(傘径15〜30センチ)を田辺湾で見掛けるのは春から夏にかけてである。それ以外の季節は、イソギンチャクのようなポリプ(高さ1〜3メートル)という状態で、海底のさまざまな物体に

付着して暮らしている。ポリプは水温の低下と日光の弱さを感じ取る

と、白い体を伸ばし、全体に多くのくびれをつくる。この皿を重ねたような姿をストロビラと呼び、皿の一枚一枚がクラゲの最も若い姿エフィラ

大きく姿変える季節

になる。自分と同じ遺伝子情報を持ったクロロンを多数つくり出しているのだ。直径1メートル足らずのエフィラはやがてストロビラから1匹ずつ離れて海中へと泳ぎだす。平たくて薄い体をリスミカルに収縮させながらパツ、パツ

ヌラ幼生は、親クラゲから離れて短期間のプランクトン生活を送り、海底の適当な場所に付着してポリプに変身する。ミズクラゲは無性生殖と有性生殖を駆使して連綿と付着生活と浮遊生活を交互に繰り返しているのだ。

クラゲの状態だと人間と同じように子どもをつくってやがて死んでしまふが、不思議なことにポリプの状態だと、体を2つに分裂したり、小さな芽を出したりして自分の分身を次々と際限なくつくれる。このような長生きする特質と、水温や水質などが大きく変化してもびくともしない丈夫さを持ち合わせており、水

族館での飼育展示(水槽番号228)に向いている。ミズクラゲの大人の体やエフィラの標本は、特集展示コーナーの鉢クラゲ細の解説場所に展示しているの併せて見てほしい。(京都大学准教授)